



議論の出発点

「なは市は人の繋がりが薄い」



基本構想

多様なつながりで共に助け合う
～小さな「わ」でつながる

大きな「WA」～

1班の基本的な考え方

「防災・防犯の基礎は自治・協働」というビジョンをもとに10年間かけて防災・防犯の那覇市、すなわち自治・協働の那覇市を創っていく。

目玉事業

- 1、防災基金設立(政策1ー施策2)
- 2、あらたな公的補償制度(1ー3)
- 3、同時通訳コールセンター設置(1ー4)
- 4、災害告知ネットワーク(2ー1)
- 5、那覇市防災冊子作成(2ー1)
- 6、防災の日の制定(2ー3)
- 7、新防災計画立案(2ー4)
- 8、地域防災コーディネーター設置(3ー2)
- 9、公益税制度(寄付が税控除の対象となる)(3ー3)
- 10、有償ボランティア基金設立(3ー4)
- 11、ボランティア人材バンク設立(4ー3)

自治・協働・防災・防犯・男女参画・人権・平和分野（各論）

政策体系	めざま ちの姿	多様なつながりで共に助け合う ～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～		
	政策	4：自治の新しい担い手を育成する。すでにある小さな「わ」（スモールグループ）を再発見していく。		
	施策	4-3：ボランティアの登録・人材バンクの登録制度を創設し活用促進する。		
施策の方向性・課題・主な取組	施策のめざす内容			
	<ul style="list-style-type: none"> 個人で参加できる仕組み→ボランティア人材バンク。 			
	施策を考えた背景・経緯			
	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアに参加したいが、どこにいけば、そして何すればいいのかわからないという意見がある。また個人の積極的参加を促す一貫した仕組みがない。 			
主な取組と市民・企業・行政の役割				
	取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
	取組1 ボランティア人材バンクの創設、ボランティアしたい人はここに登録され、ボランティアが必要な現場が紹介される	人材バンクに登録し、参加する。	人材バンクに登録し、参加する。	ボランティア人材バンクを創設し、活用促進する。

自治・協働・防災・防犯・男女参画・人権・平和分野（各論）

政策体系	めざま ちの姿	多様なつながりで共に助け合う ～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～		
	政策	1：多様な人の参加により、小さな「わ」が繋がって大きくなる。みんなで街をつくり、みんなで命を守る。		
	施策	1-2：新防災計画・防災訓練のための防災基金（仮称）を創設する。		
施策の方向性・課題・主な取組	施策のめざす内容			
	<ul style="list-style-type: none"> 市民の間の互助意識を醸成する。「寄付文化」を醸成する。 			
	施策を考えた背景・経緯			
	<ul style="list-style-type: none"> 取組1：市民は自分達で何とかしなければという危機感が薄い。 取組2：公益税制導入して市場から寄付金を調達する。 			
主な取組と市民・企業・行政の役割				
	取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
	取組1 自治体から独立した、企業や市民等の寄付で賄う防災基金（仮称）の創設	防災基金（仮称）設立に積極的にかかわる。	防災基金（仮称）設立に中心にかかわる。	（行政の）公的支援と（基金による）民間支援が重ならない様に、基金の設計に協力する。
	取組2 公益税制 ¹⁾ を導入し基金の原資を集める。 1)：公益税制とは、寄付をした企業が、そのことで税控除が受けられるような制度の事。	議会に働きかけ公益税制のための条例制定を促す。	実行性のある公益税制確立のために、寄付する側から制度設計に協力する。	公益税制導入する。

私たちの計画案は夢物語りか？



2021年

**那覇市は市政100周年を迎えます。
これは第5次総計中です。**

